

矢坂山(万成山・魚見山・富山城址)界隈を探訪

日時:2012.H24.1.7(土) 集合:北向八幡宮 9:00

指導者: 当会顧問 野崎豊氏 主催: 岡山歴史研究会 担当責任者: 山崎泰二副会長



① 北向八幡宮

古くは⑩で紹介しす万成山の元宮から、明治27年にこの地に遷宮され今の神社名になりました。律令時代から富山氏が社家を勤め地元の有力な豪族であり富山城主の松田氏の家臣団でした。本殿の右奥に富山家代々の先祖神として祀られています。江戸期富山城の大手門が岡山西の丸の石山門(S20戦災で焼失それまで国宝)として移築されています。

富山城にはここから登城。

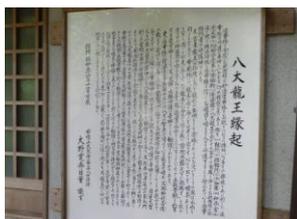
② 八大龍王(龍王堂)と磐座

古代(仏教が入る前)の祭祀跡である磐座にその後道教思想の龍神(水の神様)と法華経の日蓮宗の聖地となります。

この地は富山城の鬼門(丑寅)の守り神の意味合いもあり

今日まで龍王堂として地元の皆さんに崇拝されています。裏

の磐座は龍神(水の神様)と法華経の日蓮宗の聖地となります。



③ 鯨(クジラ)岩 【小休憩】

水道局の矢坂山配水場の大きな道を、西の矢坂山方面に山道(階段状)を登って行くと鯨形をした大きな岩が鯨岩です。

南遠方には古は吉備の穴海と称した岡山平野が広がり、眼下には大安寺大野地区が、その先の白い屋根は北長瀬のドームです。

弥生時代の遺物も出土していて、古代から開けたところです。



④ 夫婦岩とスベリ砂場

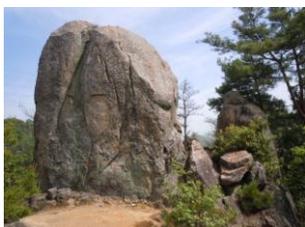
二つの大きな岩が仲の良い夫婦のように寄り添っています。

近くには、古墳時代6・7世紀の円墳が点在しています。

約60基の中には箱式石棺もあり、この土地の有力者の眠る聖地だったことが伺えます。

すぐ近くの砂場は子供たちの格好な遊び場に最適で

近くの幼稚園児のハイキングコースになっているようです。



⑤ 富山城址-1

しばらく山道を西に進むと矢坂山の山頂(131.6m)に着きます。

戦国時代御津の松田氏の出城で古くは吉備津彦の温羅退治に出てくる地名で、①の社家、富山宮司の先祖、富山大掾が初めて城を築き、鎌倉・南北朝の変遷を経て、松田・宇喜多から江戸に小早川秀秋によって廃城になりました。慶長6年(1601)のことです。





富山城址-2
矢坂山の山頂部はこの丸の跡で市内北面の展望は絶景の一つです。少し西に進むと本丸にかかりますが、万成石の採石のため殆ど消失していて、足元が危険な状況です。
辛うじて築城当時の粗い石垣が、その片鱗を掻間見る程度です。



⑥ 方位石(磐座祭祀跡)
古代祭祀の跡(磐座)でメインの岩は東西南北両面から二つに大きく割れていて、吉備の代表的な磐座だそうです。
ストーンサークル状に大きな岩が取り囲んでいます。



⑦ 魚見山・こうの岩 【昼食】
大安寺・大野地区から見上げると大きくて白い岩がそびえ立っているのが見えます。昔吉備の穴海のころ、この岩で魚の群れを監視していたとの言い伝えが名前の由来だそうです。
昔の条里制の田の一部が見渡せます。
近くに真言密教の修業祭祀の跡もあります。



⑧ 笑い岩と怒り岩
仲間の岩井秀勝氏が強く霊気を感じる地として整備を進めて居られます。池田光政の時代に古宮は廃止になり地元のかたがたによって信仰の対象として小祠が祀られています。



⑨ 万成稻荷神社の磐座(岡山稲荷 大明王)
万成稻荷神社の奥にある磐座(古代の祭祀跡)で、展望の良いところ です。



⑩ 北向八幡宮の元宮

最初の北向八幡宮は明治27年前までは万成山のこの元宮にありました。今の宮司の富山道常氏のお祖父さまの時代まで富山城を越えて通っていたとのこと。近くに手水鉢や石垣の石材が残っています。



⑪ 北向観音と手水鉢

元宮のすぐ近くには大きな磐座があり、古い祭祀の跡であることが判ります。この岩には北向観音と刻んであり信仰の対象として長く親しまれていました。



⑫ 乳岩

今でも乳飲み児を育てているお母さんたちに信仰の対象として祭られています。乗應四年と刻まれています。この年号は、私年号として使われているようで、正式な年代が判りません。日蓮宗の高名な僧侶の日軽の名前も見えます。

地名の由来について(野崎豊氏)

矢坂:いやさかがやさかに

万成:天の^{マナイ}真名井が訛りまんなりに

メモ

探訪会のコース略図

